

## 戸田沙也加 個展 『生い茂る雑草の地に眠る』

- 会 期 2023年4月8日(土)～2023年5月13日(土)
- 会 場 KANA KAWANISHI GALLERY  
〒135-0021 東京都江東区白河4-7-6 | TEL: 03-5843-9128
- 開 廊 水曜日～土曜日 13:00～19:00(日・月・火・祝休廊)  
※臨時休廊:4/29(土・祝)～5/9(火)

### ▼オープニングレセプション

2023年4月8日(土)18:00～19:00  
どなたさまもご自由にお立ち寄りください



《背高泡立草のための習作 #1》

2023 | 420 × 295 mm | ink on paper | © Sayaka Toda, courtesy KANA KAWANISHI GALLERY

KANA KAWANISHI GALLERYは、2023年4月8日(土)より、戸田沙也加個展『生い茂る雑草の地に眠る』を開催いたします。

美しさと表裏一体の醜美の世界観を絵筆に込め、稀代のペインターとして注目を集めてきた戸田沙也加は、2021年には写真表現のみの個展をKANA KAWANISHI PHOTOGRAPHYで開催するなど、メディアム問わず通底する表現力が高く評価されてきました。この度KANA KAWANISHI GALLERYで行う個展では、絵画を中心に写真も加えながら展示を構成し、アーティストとしての新境地を切り開きます。

■ 画像データのご依頼等は下記までご連絡下さい ■

まもなく解体を迎えるとある物故作家のアトリエをモチーフに制作された本展では、人知れず朽ちゆく無数の女性の裸体の塑像群に、否応なく創作意欲を掻き立てられたと作家は語ります。自身の創作テーマとして一貫して自覚してきた醜美の軸だけでなく、存在と忘却、人間界の営みと自然界の営み、西洋と東洋、女性と男性など、あらゆる表裏一体性がそこには内在しており、相反する二つのものが大もとでは一つであることに思いを巡らされます。

純粹に自身の世界観の醸成と抽出に向き合う戸田沙也加が、外界を切り取る写真というメディアムと、自身の内面性を表出させる絵画の両方を用いて構成するこのたびの個展を、是非お見逃しなくご高覧いただけますと幸いです。

### 「生い茂る雑草の地に眠る」

アトリエとは芸術家の創造の庭であり魂の痕跡である。再開発により間もなく一人の彫刻家のアトリエが取り壊される。主を失った名もなき女性達の陰影は北向きの大きな窓から差し込む仄暗い光によって映し出される。それぞれが故人の知人の元へ渡るその時まで静かに雑草に覆い囲まれたこの地で眠る。

19世紀後半に西洋的概念が我が国に輸入され、芸術家達は西洋に習い女性の裸体を人間性を抜き去った肉体の美の集積として表現することを受け入れた。取り憑かれたように作られ続けた裸婦たちは、一つの時代の象徴にも思える。それらが草木に覆われ消えてゆく様を、女である自己の眼差しを通して現代に浮かび上がらせる。

戸田沙也加

### アーティストプロフィール

戸田沙也加(とだ・さやか)

1988年、埼玉県生まれ。2012年、女子美術大学大学院美術専攻洋画研究領域修了。

主な個展に『The glitter of the shadow and color of the light』(2023年、GALLERY MERROW、東京)、『海を越えて、あるいは夜の向こうに』(2021年、KANA KAWANISHI GALLERY、東京)、『美しさのあるところ—Where the beauty is—』(2011年、木之庄企画、東京)。主なグループ展に『ソノ アイダ#COVID-19』(2020年～、オンライン展示)、『Seeing the Unseen』(2016年、ギャラリー桜林、茨城)、『ワンダフルマイアート 高橋コレクションの作家たち』(2013年、河口湖美術館、山梨)、『TO THE FUTURE』(2012年、ミヅマ・アクション、東京)、『第31回損保ジャパン美術財団選抜奨励展』(2012年、損保ジャパン東郷青児美術館、東京)など。受賞歴に2010年「アートアワードトーキョー丸の内2010」木幡和枝賞、2010年「シエル美術賞展」入選など。